

国立大学等の特色ある施設2017 ～サステイナブル・キャンパスの形成に向けて～ 【概要】

■ 「国立大学等の特色ある施設」とは？

国立大学法人等の施設整備の設計における大学機能の活性化対策として、施設整備の状況を広く関係者や関係機関に紹介するとともに、施設の質的向上に役立てることを目的として、平成24年度から「国立大学等の特色ある施設」を刊行しており、これまで計4冊を発行しています。



■ 事例集(2017版)のポイントは？

本書「国立大学等の特色ある施設2017～サステイナブル・キャンパスの形成に向けて～」は、「第4次国立大学法人等施設整備5か年計画」(平成28年3月29日文科科学大臣決定)で重点整備の一つとして示している「サステイナブル・キャンパスの形成」をテーマとし、近年の国立大学法人等における省エネルギー対策や、先進技術を活用した施設整備の取組の中から、広く関係者等への活用が期待できる特色ある取組について、事例集としてとりまとめました。

ポイント1 【事例集のテーマについて】

本書では、サステイナブル・キャンパスの形成について、以下の2つのテーマで事例を掲載しています。

① キャンパス全体での省エネルギーの取組

サステイナブル・キャンパスの実現に向けた計画(基本構想等)、省エネルギー対策の財源の確保方策、エネルギーの使用状況や費用対効果の分析、投資効果を考慮した運用改善や施設・設備更新等の計画、エネルギー削減実績、工事費回収(予定)年数など

② 先進技術を活用した施設整備の取組

ZEB(ネット・ゼロ・エネルギー・ビル)を目指した整備、LEEDやCASBEE等の認証取得、大学教員や企業の協力を得て技術・設備等の導入、整備施設を研究対象として成果を展開、間伐材の利用など

ポイント2 【巻末データ集について】

設備更新等を計画する際の参考となるよう、工事費回収(予定)年数等についての実績一覧を巻末に設けました。

各国立大学法人等においては、経営層が参画した省エネ対策等の企画・立案から、実務担当者の技術力の向上まで、様々な方法で本書を活用していただき、取組を進めていただきますようお願いいたします。